

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)薬師沢				
事業毎の通番	12	市町村名	小川村	箇所名(ふりがな)	稲丘(いなおか)			
事業目的	薬師沢は、一級河川土尻川へ流入する流域面積1.43km ² の土石流危険渓流であり、その流域には「柵層」の崩壊性の堆積物が堆積している。また、河岸及び渓床内には立木が見られるが、荒廃が進み一旦豪雨に見舞われると流木を伴った土石流の発生が懸念される。 このため、砂防堰堤を増設し下流の人家3戸、村の地域防災計画に位置づけられている避難所1棟の保全を図る。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	-							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家3戸、稲丘東生活センター(避難所)、小川村浄水場、県道小川長野線							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2024(平成36年度)	費用対効果	3.3		国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			330,000	165,000	0	148,500	16,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家3戸 避難所1棟 小川村浄水場1棟 県道400m						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	【保全人家】3戸						評価
		【保全公共施設】稲丘東生活センター(避難所) 小川村浄水場						B
	重要性	【過去の災害履歴】善光寺地震						評価
		【交通影響】一般県道 小川長野線が分断され、地域住民の生活に著しく支障をおよぼす						B
	効率性	【費用対効果】B/C= 3.37						評価
		【早期効果発現】事業期間:6年						A
緊急性	【地形地質】第三期[柵層]のため地質は脆弱 豪雨により流出する可能性あり						評価	
	【流域植生】倒木が多数						B	
計画熟度	【情報共有】砂防惣代、地元区に対し説明を行っている。まは、事務所HPIにより保全活動等の情報を発信						評価	
	【地域要望】砂防惣代制度による草刈り、維持管理の実施						A	
所管課意見	当該渓流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている避難所及び浄水場が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。						採択状況	
							○	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

位置図

平面図

事業概要説明図表

構造図

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	薬師沢は、一級河川土尻川へ流入する流域面積1.43km ² の土石流危険渓流であり、その流域には「柵層」の崩壊性の堆積物が堆積している。また、河岸及び渓床内には立木が見られるが、荒廃が進み一旦豪雨に見舞われると流木を伴った土石流の発生が懸念される。このため、砂防堰堤を増設し下流の人家3戸、村の地域防災計画に位置づけられている避難所1棟の保全を図る。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	薬師沢の砂防の歴史は明治19年と古く、地元の砂防惣代、住民、行政の協力によって守り継がれている。当時施工された石張り水路群は、「登録有形文化財 薬師沢水路工」に登録され、遊歩道の整備や草刈等の維持管理等、地元住民と深く関わりながら行われてきた経過がある。その様な状況のなか、地元では上流域の荒廃状況や近年の異常降雨等による土砂の流出が懸念されており、堰堤整備の強い要望が出されている。
③事業説明等の経緯	明治期より砂防事業を進めてきた渓流であり、地元地区の合意形成は図られている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺環境への影響を抑えることを念頭に砂防設備の設計を進める予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	砂防事業により、地域住民の安全・安心を確保するとともに、災害のない地域づくりを推進し、地域の活性化を図る。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 138° 00' 15" 94
東経:E 36° 38' 45" 55

(様式2)新規評価シート

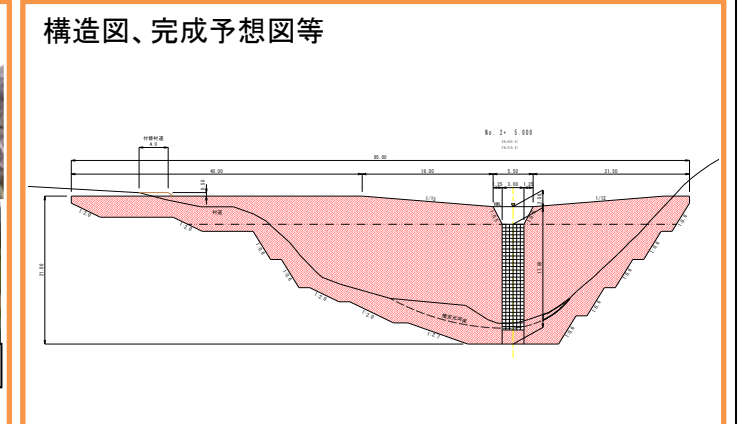
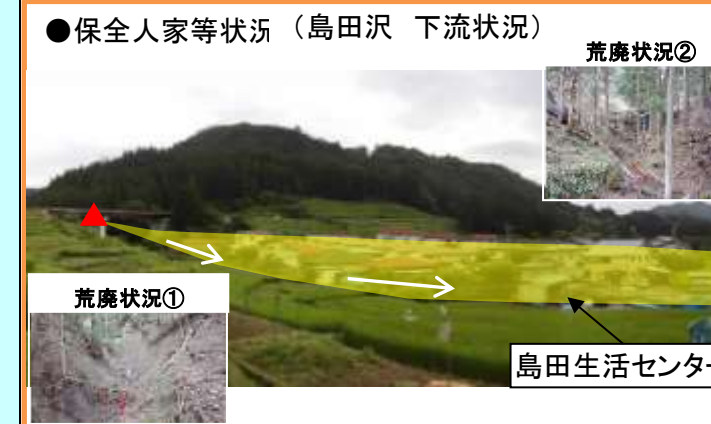
建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)島田沢(しまんたさわ)					
事業毎の通番	13	市町村名	小川村	箇所名(ふりがな)	落畑(ふきばたけ)				
事業目的	島田沢は流域面積1.16km ² の土石流危険渓流である。島田沢は下流には人家および主要地方道長野大町線が存在しており、流域内では荒廃が進んでいる状況であるため、土石流発生時の被害は甚大であると想定される。このような状況から、砂防えん堤工の新設を行い、民生の安全化を図りたい。								
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法					
関連する事業、計画等	-								
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象: 人家50戸、生活センター1箇所、事業所、村道(橋梁有り)								
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
完成年度(見込み)	2027(平成39年度)	費用対効果	2.3		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 2基			900,000	450,000	0	405,000	45,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	保全対象: 人家51戸、生活センター1箇所、事業所、村道							
	間接的効果(定量的・定性的)	土石流危険渓流の指定が解除される							
評価の視点	必要性	【保全対象: 人家】 51戸 【保全対象: 公共施設】 生活センター、事業所、村道 【保全対象: 要配慮者利用施設】 なし 【避難場所】 なし						評価	B
	重要性	【災害履歴】 H29.8.11の豪雨により土石流出 【交通影響】 村道が分断され住民の生活に支障をおよぼす 【位置付け】 土石流危険渓流 I						評価	A
	効率性	【費用対効果】 B/C=2.37 【早期効果発現】 事業期間9年 【工法等比較検討】 施設の配置計画について検討あり 【総合調整】 保安林がないことを林務課に確認済み						評価	A
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱かつ地すべり地形(新第3紀層 砂岩・泥岩) 【地域植生】 倒木が多数 【平均河床勾配・土砂整備率】 勾配14° ~ 22° 土砂整備率29.7% 【危険地区】 土石流災害防止法に基づく土石流危険渓流I						評価	A
	計画熟度	【情報共有】 関係者を中心に周知 【地域要望】 小川村からの要望有り(H29.9.27) 【地域合意】 合意形成が図られている 【住民参加】 高府地区防災訓練有り(H29.9.3)、小川村防災マップ作成(平成29年度)						評価	A
		所管課意見	当該渓流の保全対象には集落センター、人家51戸が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。				採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							○	A

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当事業箇所は、長野から白馬線を結ぶ県道長野大町線の南側に位置し、保全対象には、人家50戸、村道などが存在し現渓床勾配1/12の土石流危険渓流である。流域内のえん堤の一部は満砂となっており、倒木や表層崩壊など荒廃状況が確認されている。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	島田沢では、流域内の荒廃が進み、倒木や斜面の表層崩壊、浸食箇所が多数確認され、既設堰堤は満砂状態である。また、下流には保全人家として50戸の住宅や生活センター、事業所がある。付近には小川村役場、公民館、小、中学校、小川村郷土歴史館、びつくらんど小川等などの施設もあることから当該箇所の事業化が要望されている。	
③事業説明等の経緯	民生の安全化を図るために事業化が求められており、詳細の事業計画説明などは今後実施を予定している。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	今後周辺環境への影響を抑えることも観点に計画を行う予定。	
⑥地域活性化への影響と配慮	事業箇所は、長野から白馬線を結ぶ県道長野大町線の南側に位置し、近くには、小川村役場、小、中学校などの公共施設が存在する地域である。砂防事業の実施に伴い人家、生活センター、事業所等が保全され、地域の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力が期待される。	
⑦その他	○コスト削減、建設副産物削減等は今後検討予定。	
	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 137° ' 58" 36 東経: E 36° 36' 46"

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		通常砂防事業		路河川名等	(砂)母沢(ははさわ)					
事業毎の通番		14	市町村名	塩尻市	箇所名(ふりがな)	木曾平沢(きそひらさわ)				
事業目的	本溪流は塩尻市の南西部に位置し、地質は粘板岩から成る流域面積2.57km ² の土石流危険溪流Iである。流域は荒廃しており、不安定な溪床堆積物、崩壊地が多く土砂流出の恐れがあることから、当該地区の安全を図るため母沢砂防堰堤が昭和52年に整備された。しかし当施設は、本堤の亀裂、はくり等が認められ、かつ流木対策施設が無い現行基準を満足しない構造となっている。このため基準を満足する構造で補修し、流出土砂・流木による被害を未然に防止する。									
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法						
関連する事業、計画等	-									
保全対象・範囲 受益対象・範囲	檜川保育園、母沢地区集会所、人家37戸、国道19号、市道									
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)					
完成年度(見込み)	2022(平成34年度)	費用対効果	7.2		国庫	その他	県債	一般財源		
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 N=1基			315,000	157,500	0	141,750	15,750		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	檜川保育園、母沢地区集会所、人家37戸、国道19号、市道								
	間接的効果(定量的・定性的)									
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 37戸 ○公共施設数 : 2件(檜川保育園、母沢地区集会所) ○要配慮者利用施設数 : 檜川保育園 ○避難場所、避難路 : 檜川保育園 園庭【地域防災計画に記載のある避難施設】						評価	A	
	重要性	○過去の災害履歴 : 昭和36年6月26日、土石流災害 ○交通遮断による地域経済への影響 : 国道19号:震災対策緊急輸送路(一次)が遮断(迂回ルートは10km以上) ○地域防災計画の位置づけ : 土石流危険溪流(1ランク)・土砂災害防災法警戒区域						評価	A	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 7.26 ○事業期間 : 4年間(H31~H34) ○工法等の比較検討 : 砂防計画策定・砂防堰堤形式(鋼製スリット・基礎処理工・補修工法)の比較 ○流域の総合調整 : 調整中						評価	A	
	緊急性	○流域の地形、地質 : 地質がぜい弱(三紀層) ○流域の植生 : 放置林 ○平均溪床勾配 : 4.7° 土砂整備率 : 44.6% ○土砂災害防止法 指定区域 : 警戒区域指定済み						評価	B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(塩尻市、地元区長) ○地域の取り組み : 塩尻市から要望あり ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 地元自治会における清掃活動						評価	B	
	所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設及び避難所が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。						採択状況	○	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。									

【位置図、平面図】

位置図



事業箇所

平面図



【整備の必要性がわかる状況写真等】

① 保全対象 避難施設



砂防堰堤の破損状況



砂防堰堤天端幅1.5m厚さ不



事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該施設は、砂防関係施設長寿命化計画で改築が必要な要対策箇所として位置付けられた。損傷や機能低下が進行し、施設の機能が不足している砂防堰堤であり、また土砂災害防止法に基づく警戒区域内には37戸の人家、地域防災計画に記載のある避難施設檜川保育園がある。 下流部への土砂流出を防ぎ、避難路を確保し、地元住民の生命と財産を守るため、緊急的な修繕や機能向上を行う砂防堰堤を整備するものである。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H29年12月13日 塩尻市産業建設委員会より要望あり。
③事業説明等の経緯	砂防詳細設計策定後、関係者と調整を行う予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	猛禽類に対する配慮を要する可能性がある。
⑥地域活性化への影響と配慮	砂防事業により、地域住民の安全・安心を確保するとともに、災害のない地域づくりを推進し、地域の活性化を図る。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35° 58' 28"
東経:E 137° 49' 42"

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

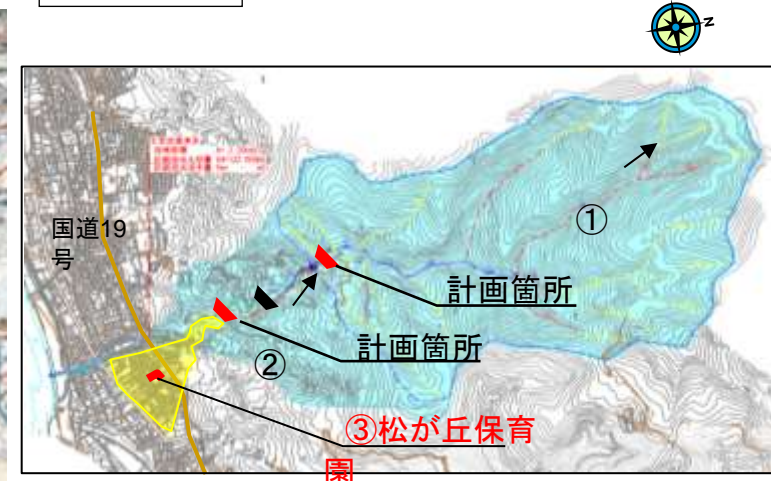
事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)佛沢(ほとけさわ)				
事業毎の通番	14	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	犀沢(さいさわ)			
事業目的	泥沢は、長野市安茂里地区に位置し、流域面積2.2km ² の土石流危険渓流である。また、土砂災害警戒区域にも指定されており、区域内には社会福祉法人博愛会松が丘保育園(要配慮者利用施設)が存在する他、人家153戸が被害想定範囲に含まれており、豪雨時に土石流等が発生すれば、非常に大きな被害となることが想定される。そこで本事業は砂防堰堤を整備し、流出土砂・流木による被害を未然に防止することを目的とする。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	なし							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	松ヶ丘保育園、人家153戸、国道19号							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	28.8	国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 N=2基			600,000	300,000	0	270,000 30,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	松ヶ丘保育園、人家153戸、国道19号						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 153戸 ○公共施設数 : 1件(松ヶ丘保育園) ○要配慮者利用施設数 : 松ヶ丘保育園 ○避難場所、避難路 : 国道19号					評価	A
	重要性	○過去の災害履歴 : 平成9年6月28日 ○交通遮断による地域経済への影響 : 国道19号:震災対策緊急輸送路(一次)が遮断 ○地域防災計画の位置づけ : 要配慮者利用施設、土石流危険渓流(1ランク)、土砂災害防災法警戒区域					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 28.8 ○事業期間 : 5年間(H31~H35) ○工法等の比較検討 : 砂防計画策定・砂防堰堤形式(鋼製スリット・基礎処理工・補修工法)の比較 ○流域の総合調整 : 調整中					評価	A
	緊急性	○流域の地形、地質 : 軟弱 ○流域の植生 : 放置林 ○平均渓床勾配 : 16° 土砂整備率 : 3% ○土砂災害防止法 指定区域 : 警戒区域指定済み					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(塩尻市、地元区長) ○地域の取り組み : 地域防災マップを作成 ○地域の合意形成 : 関係者を中心に概ね合意形成が図られている ○住民との協働 : 地域防災マップ作成にあたり、地元自治協議会と協議					評価	B
	所管課意見	当該渓流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。				採択状況	総合評価	○ A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図】

位置図



平面図



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

③ 保全対象 避難施設



松が丘保育園
(児童164人、職員21人)

① 渓流状況



② 渓流状況



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	犀沢は長野市安茂里宇小市地区を流れる渓流で、土石流危険渓流1ランクに指定されている。危害のおそれのある区域には人家153戸と要配慮者施設である松が丘保育園がある。平成9年6月28日には土石流が発生し、砂防堰堤を設置した経緯がある。沢全体の計画では、整備率が100%に達していないため、本事業を行いたい。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該地区は平成29年度に3度の避難勧告がでるなど、土砂災害の危険性が高い地域であり、地元自治協議会を中心に地域防災マップを作成するなど、土砂災害への意識が高い。	
③事業説明等の経緯	砂防詳細設計策定後、関係者と調整を行う予定。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	猛禽類に対する配慮を要する可能性がある。	
⑥地域活性化への影響と配慮	砂防事業により、地域住民の安全・安心を確保するとともに、災害のない地域づくりを推進し、地域の活性化を図る。	
⑦その他		
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 58' 28" 東経:E 137° 49' 42"

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)前島川(まえしまがわ)		
事業毎の通番	16	市町村名	茅野市	箇所名(ふりがな)	北大塩(きたおおしお)	
事業目的	本溪流は茅野市の東部に位置し、霧ヶ峰高原に端を發し、藤原川が合流したのち上川へ流入する。流域面積は12.59km ² で、それぞれ土石流危険溪流Ⅰである。昭和58年台風10号に伴う豪雨により、氾濫決壊し大きな被害を受けた。同様の被害を受けた近隣の檜沢川、茅野横河川には砂防堰堤が整備済みである。前島川は、土石流により隣接する藤原川にも影響を与える可能性があり、土砂洪水氾濫の危険性が高い。前島川及び藤原川に砂防施設を整備することで、下流域に存在する人家、要配慮者利用施設、避難所、県道を保全し、地域の安全性向上を図る。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等	なし					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家138戸、老人福祉センター塩壺の湯【要配慮者利用施設(24h)避難所】、県道諏訪茅野線、県道茅野停車場八子ヶ峰公園線					
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2026(平成38年度)	費用対効果	13.7	国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	土石流堆積工 1基、砂防堰堤 1基			800,000	400,000	360,000 40,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	災害時要配慮者利用施設の保全。重要交通網の保全。避難所の保全。				
	間接的効果(定量的・定性的)	土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域の解消。				
評価の視点	必要性	【保全時人家戸数】 人家138戸 【保全公共施設】 県道諏訪茅野線、県道茅野停車場八子ヶ峰公園線 【保全災害時要配慮者利用施設】 茅野市高齢者福祉センター塩壺の湯「ゆうゆう館」 【避難場所】 老人福祉センター塩壺の湯				評価 A
	重要性	【災害履歴】 災害履歴地(昭和58年台風10号) 【交通影響】 県道諏訪茅野線、県道茅野停車場八子ヶ峰公園線 【位置づけ】 茅野市地域防災計画(要配慮者利用施設、避難所)、土石流危険溪流Ⅰ				評価 A
	効率性	【費用対効果】 B/C=13.71 【早期効果発現】 事業期間8年 【工法等比較検討】 溪流調査において概略設計を実施 【総合調整】 保安林がないことを林務課に確認済み				評価 A
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱(第四紀層) 【地域植生】 倒木が多数 【平均渓床勾配・土砂整備率】 勾配9° 整備率0% 【危険区域】 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり(D-04-214-134をはじめ8溪流)				評価 A
	計画熟度	【情報共有】 H30.6 茅野市、北大塩区に事業を説明 【地域要望】 茅野市北大塩区から平成26年度から毎年要望を受けており、事業に協力的 【地域合意】 茅野市北大塩区から平成26年度から毎年要望を受けており、事業に協力的 【住民参加】 H30.9 北大塩区を含む米沢地区で地区防災マップを作成中				評価 B
所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設及び避難所が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。			採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。			○	A	

位置図

諏訪市
茅野市
計画位置

流域図

檜沢川
前島川
藤原川
茅野横河川
上川
土砂災害警戒区域
県道諏訪茅野線
県道茅野停車場八子ヶ峰公園線

事業概要説明図表

藤原川
茅野市高齢者福祉センター塩壺の湯「ゆうゆう館」(避難所)
昭和58年台風10号による被災状況

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	下流域には宅地が集中し、県道諏訪茅野線、県道茅野停車場八子ヶ峰公園線が通っている。また、要配慮者利用施設や避難所が位置するため、速やかな土砂災害対策が必要となっている。前島川は、土石流により隣接する藤原川にも影響を与える可能性があり、土砂洪水氾濫の危険性が高く、地元要望も強い。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	過去には、昭和58年に台風10号による洪水・浸水被害を受けている。その後、周辺溪流において砂防堰堤を順次施工したこともあり、茅野市及び地元地区から砂防事業の要望があり、事業に対しても協力的である。昭和58年に台風10号による洪水・浸水被害を経験しており、防災意識が高い地域である。平成30年9月から北大塩区を含む米沢地区で地区防災マップを作成中である。
③事業説明等の経緯	平成22年2月に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を指定。地元要望を受けて、平成26年12月から溪流調査を実施。平成30年6月に調査結果について地元関係者に説明を実施し、ソフト対策を先行し地区防災マップの作成にとりかかっている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	諏訪地域振興局林務課に保安林の指定状況を確認し、保安林の指定はなかった。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	前島川は流域面積が比較的大きく、流出土砂量もそれぞれの上流支溪流より20,000m ³ 程度流出する流出土砂量の大きい溪流である。渓床勾配は比較的急である。礫径も1m以上の物が多数存在し、植生は針広混交林であり、カラマツが主体をなす。周辺環境への影響を抑えることも観点に、設計・工法等の検討を行う。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、前島川、藤原川の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力の向上が期待される。
⑦その他	土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり(D-04-214-134、D-04-214-135、D-04-214-136、D-04-214-137、D-04-214-138、D-04-214-139、D-04-214-140、D-04-214-150)

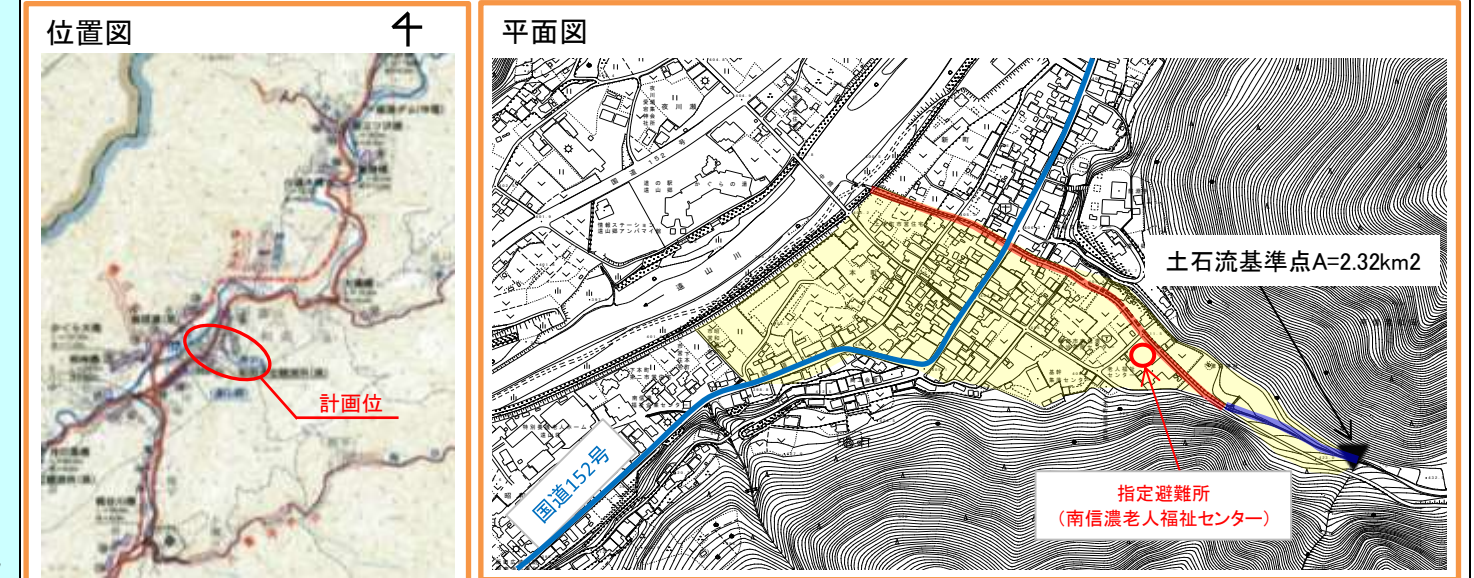
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 2' 30.8"
	東経:E 138° 11' 49.7"

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)小池沢(こいけさわ)				
事業毎の通番	17	市町村名	飯田市	箇所名(ふりがな)	和田(わだ)			
事業目的	小池沢は、(一)遠山川の支流であり、遠山谷を形成する東側山地を流域とする急流河川である。当該河川は、飯田市南信濃遠山地域の中心市街地を流下しており、集落、幹線道路が密集している。保全対象として、人家113戸、国道152号、応急避難施設(南信濃老人福祉センター)があり、過去の出水により大きな被害をもたらしてきた。遊砂池工等を整備し、民生の安定化を図りたい。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	-							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全人家113戸、(国)152号、応急避難施設(南信濃老人福祉センター)							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	17.9		国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	遊砂池工 1基			500,000	250,000		225,000 25,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	保全人家113戸、(国)152号、応急避難施設(南信濃老人福祉センター)の保全						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】:113戸 【保全公共施設】:国道、自治会館 【避難場所、避難路】:南信濃老人福祉センター					評価	A
	重要性	【災害履歴】:あり 【交通影響】:国道152号 【位置づけ】:地域防災計画上の位置付けあり(避難所)					評価	A
	効率性	【費用対効果】:17.9 【早期効果発現】:事業期間 5年 【工法等比較検討】:今後検討を実施					評価	B
	緊急性	【地形地質】:崖錐堆積物 【流域植生】:倒木が多数 【平均河床勾配】:17.2° 【危険地区】:土砂災害特別警戒区域指定(D06-419-023)					評価	A
	計画熟度	【情報共有】:関係者を中心に周知 【地域要望】:飯田市から要望がある。					評価	B
	所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設及び避難所が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。				採択状況	総合評価	○ A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



国道から上流を望む 下流へ行くにつれ断面が狭くなっている 指定避難所(南信濃老人福祉センター)

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	小池沢は、土石流危険溪流であり想定氾濫区域には人家113戸の他、指定避難所である南信濃老人福祉センター及び国道152号がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成22年に出水が発生したことから、毎年の要望時に地元から新規事業化の要望を受けている。
③事業説明等の経緯	H30年に現地調査において、事業化の可能性あることを説明している。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	土砂災害防止法に基づくソフト対策の取り組み
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	流路工が整備されることにより、安心安全な生活環境に寄与する。今後周辺環境への影響を抑えることを念頭に砂防施設の設計を進める予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	土石流対策施設の設置により国道152号の安全が図られ、地域防災力の向上に寄与する。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 137° 56' 3" 30
東経:E 35° 19' 14" 44